

**「豊かな心をはぐくむ道德の時間の充実」  
－指導過程と学習形態の工夫を通して－**

大阪市立佃小学校 研究部

## 1. 研究主題設定の理由

本校では、学校教育目標に「元気のある子・なかよくする子・よく考える子」をあげ、めざす子ども像を「たくましく健康的な生活を送ることができる子」「互いを認め合い、助け合うことができる子」「基礎的・基本的な学力が身についている子」として、児童の実態に合わせた教育活動を日々進めている。

平成 27 年 7 月、文部科学省より小学校学習指導要領解説（特別の教科道德編）が発表された。道德科の授業においては、子どもたちが主体的に考え、議論する道德への転換を意図している。本校では、このような新しい道德教育の動きや社会の要請、本校の児童の実態などから、研究主題を「**豊かな心をはぐくむ道德の時間の充実**」－指導過程と学習形態の工夫を通して－と設定し、昨年度より研究活動を進めてきた。

## 2. 研究の趣旨

今年度は、昨年度の反省を踏まえ、児童の発達段階をより一層踏まえた指導内容の改善、互いを認め合うことのできる学習活動の工夫を図れるように研究活動に取り組む必要があると考えた。そこで、研究主題はそのままに、道德的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題として捉えて向き合い、自分の思いや考えを表現できる授業展開を工夫することを柱として研究を深めた。そして、目指す子ども像である「互いを認め合い、助け合うことができる子」の実現を図ることとした。

## 3. 研究の概要

研究を進めていくうえで、教師による指導法や学習形態は児童の思考や話し合いを深める重要な鍵になる。そこで、本校では、ねらいにそって、研究の視点を 2 点に絞って指導法を工夫することにした。

### **視点① 指導過程の工夫**

#### ・資料提示の方法

資料提示の方法として、教師による読み聞かせが一般的である。その際、紙芝居を利用したり、ペープサートを生かしたりして劇のような提示を行うなどの工夫が考えられる。また、効果音や映像資料、実物使用などの活用も効果が高められる方法の 1 つである。

#### ・発問の精選

発問によって児童の問題意識や疑問などが生み出され、多様な感じ方や考え方を引き出すことができる。そのためにも、児童の意識の流れを予想し、それに沿った発問や、考える必要性、切実感のある発問、自由な思考を促す発問などを心

掛けることが大切である。その際、授業での発問は重要なものに絞られていくことになる。発問を構成する場合には、授業のねらいに強くかかわる中心的な発問をまず考え、次にそれを生かすためにその前後の発問を考え、全体を一体的にとらえるようにするという手順が有効である。

・書く活動の重視

書く活動は、児童が自ら考えを深めたり、整理したりする機会として、重要な役割をもつ。この活動においては、必要な時間を確保することで、児童は自分なりの取り組み方でじっくりと考えることができる。また、学習の中で個別化を図り、児童の感じ方や考え方をとらえておくことは、個別指導を進める重要な機会になる。さらに、道徳ノートなどを活用することによって、児童の学習を継続的に深めていくことができ、心の成長の記録として活用することもできる。

**視点② 学習形態の工夫**

児童が心を揺れ動かし、迷い葛藤のある場面で様々な考えを出し合えるように学習形態を工夫する。そこで、積極的に話し合うことができるように、全体での意見交流や討論だけでなく、4・5人の小グループでの話し合いやペア活動などを取り入れる。また、登場人物の心情を考えたり、ねらいとする価値に気づかせたりするために、動作化や役割演技を取り入れたりすることも効果的である。

#### 4. 研究の成果と課題

##### (1) 研究の成果

- 大型テレビやデジタル教科書など、ICT機器を用いて写真や画像などの資料を掲示することで、児童は身近な題材として教材に興味をもって取り組むことができた。
- 場面を振り返りながら主人公の気持ちを考えさせたり、登場人物の表情の変化に注目させたりするなど、場面絵を効果的に用いることにより、児童は主人公の気持ちの内面に、よりせまることができた。
- 授業のねらいに強く関わる中心的な発問を設定した。さらにいくつかの補助発問も設定することで、児童は中心発問で主人公の思いや気持ちの変化をとらえやすくなり、様々な考えを引き出せるようになった。
- 低学年では、吹き出し形式にしたり、マス目を入れたりするなど、発達段階に応じて書く量や書き方を調整しながら取り組んだ。その結果、書く時間を十分確保することができ、主人公の気持ちをしっかりと考えることができた。

##### (2) 研究の課題

- 児童の発言には、「くわしく教えて」「それはどういうことかな」など切り返しの発問をする必要があった。
- 書く活動や話し合い活動では、時間がかかることも多く、活動の時間配分を十分考えて授業展開する必要がある。